農林水産大臣賞受賞

「人」と「農」を核に村をデザイン

受賞者　上ノ村環境保全プロジェクト（かみのむらかんきょうほぜん）

（三重県津（つし）市）

■　地域の沿革と概要

津市は三重県のほぼ中央に位置しており、総人口は 279,886 人（平成 27 年国勢調査）、総面積は 711.1 ㎢で県内最大である。耕地面積の約 78%が水田で、コシヒカリを中心とした良質米が生産される。小麦、大豆の栽培も増えており、キャベツ、ブロッコリー、梨等の生産も盛んである。

第１図　位置図

■　むらづくりの概要

１．地区の特色

上ノ村地区は津市西部の中山間地域に位置し、人口 280 人、世帯数 78 戸、農地面積 41ha（うち田 39ha）の集落で、稲作が中心で、農家数は 53 戸、専業農家は地区の担い手１戸のみで、他は兼業農家である。営農組合はなく、多くの農家が担い手に田植え、稲刈りを委託している。

第１表　地区の概要

事　項	内　容	
地区の規模	集落の集合体	
地区の性格	機能的な集団等	
農 家 率		67.9%
（内訳）	総世帯数	78戸
	総農家数	53戸
専兼別農家数		
（内訳）	専業農家	1戸
	1種兼業農家	0戸
	2種兼業農家	33戸
農用地の状況	総土地面積	※ 3,047ha
（内訳）	耕地面積	41ha
	田	39ha
	畑	2ha
	耕地率	※ 2.6%
	農家一戸当たり耕地面積	0.8ha

※は旧市町村：倭村

２．むらづくりの基本的特徴

（１）むらづくりの動機、背景

上ノ村地区は、農業者の高齢化等により、農道・用排水路等の管理が困難になっていることに加え、獣害により農作物被害が増加したことで、農業離れによる遊休農地の増加などが課題となっていた。

こうした中、「地域を何とかしたい」という思いを持った自治会の有志が平成 17 年に地域の盆踊りを 40 年ぶりに復活させた。この取組が集落の将来像について話し合うきっかけとなり、地区の住民

全員での地域づくりを目指し、「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組むこととし、平成 21 年６月に当該事業の活動組織として「上ノ村環境保全プロジェクト」（通称「ＫＫＰ」）を設立した。

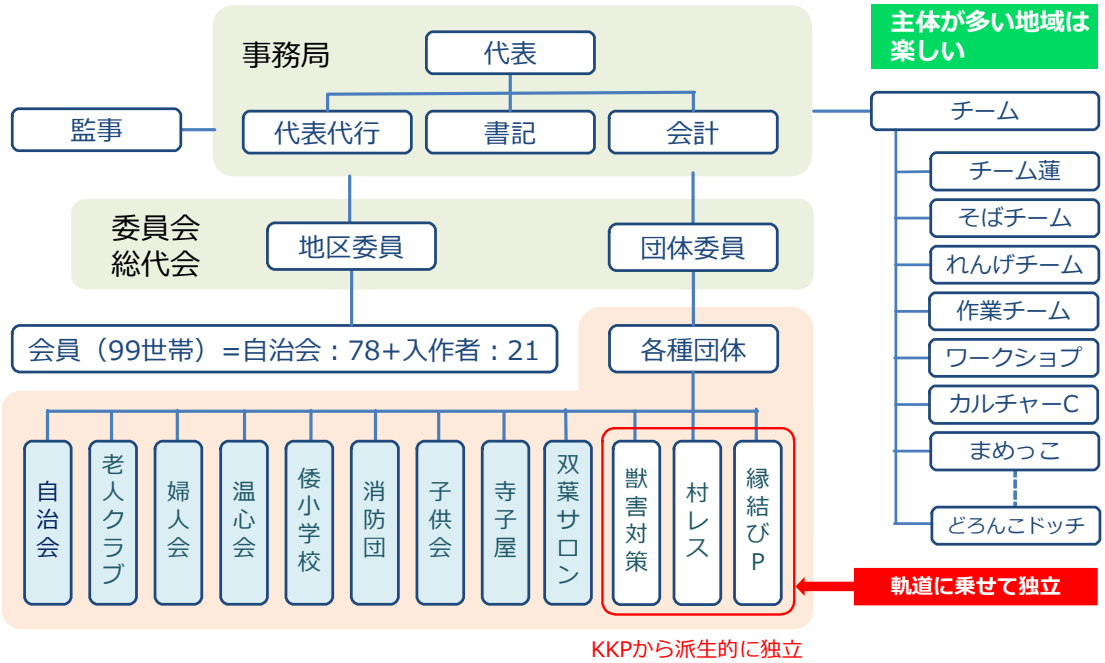
（２）むらづくりの推進体制

ア　ＫＫＰの組織体制、構成員の状況

ＫＫＰは、上ノ村地区の 78 世帯の全住民及び地区の農地への入り作者 21 世帯、合わせて 99 世帯で構成され、代表以下４名で構成する事務局と、地区委員７名で構成する委員会により運営している。

毎月開催される事務局会議及び偶数月に開催される委員会でＫＫＰの活動を協議し、地区委員から地区の各戸に情報共有を行い、地域が一体となった活動につなげている。

第２図　むらづくり推進体制図



イ　取組の合意形成

ＫＫＰは、地域を自分たちで守るという住民の主体的な参加を促すため、地区で取組方針を決めるときは、一部の役員が決定するのではなく、常にていねいな合意形成を意識して活動している。

ＫＫＰは、女性が動くことで地域が活性化するという思いから、初代会長に女性を迎え、集落で発言機会の少なかった女性からの意見を聞き取って反映することで、女性を中心とした活動が広がり大きな推進力となっている。

侵入防止柵のルート決定や設置作業においては、ＫＫＰが全戸に資料を配付して２度の説明会を開催した。説明会に出席できない女性や独居老人世帯へも戸別訪問等により直接意見を聞くなど、ていねいな合意形成に努めたことで、柵の設置、その後の柵の管理・運営についても住民挙げて行

うようになった。

この取組がＫＫＰの信頼を高め、以降の活動についても皆の理解を得やすくなり、活動を広げることができた。

ウ　ＫＫＰから独立した活動組織

ＫＫＰでは、立ち上げ当初より「主体が多い地域は楽しい」という思いから、事業ごとに活動チームを作り、活動の進捗に応じて独立させている。

①　上ノ村自治会獣害対策協議会

上ノ村自治会獣害対策協議会は、集落最大の課題となっていた獣害対策を担う組織として、平成 23 年に設立し、侵入防止柵の点検・補修作業と有害獣類の捕獲を行っている。

当協議会では、柵の全支柱に番号を付し、柵データベースを作成し状況把握することで、点検・管理作業を確実かつ効率的に行っている。年３回行う柵の点検作業には、全住民の７割を超える参加があり、地区の重要な取組として根付いている。

また、当協議会は害獣の捕獲技術に優れた者を有しており、近隣地区の害獣捕獲にも貢献している。

②　上ノ村縁結びプロジェクト

上ノ村縁結びプロジェクトは、平成 26 年に地域での活動を希望する三重大学の学生 10 人程で始まった。現在では 35 人程が活動しており、休耕田の復活、廃品となった農業機械の再生利用、手作りの集落地図による情報発信、集会所のピザ窯作りなど広範囲に取り組んでいる。

写真１　学生田の稲刈り

活動当初は住民との関わりが薄かったが、ＫＫＰが住民に呼びかけをしたことで、米づくりや収穫祭など学生達の活動に参加・協力する住民が増えている。

獣害対策にも熱心で、学生３人がワナ免許を取得して、緩衝帯の設置や害獣の捕獲活動に参加しており、うち１名が地区の空き家を修繕して定住し、後継者として期待されている。

③　村のレストラン

ＫＫＰの「好きなこと、得意なことで地域に貢献する喜びを」という呼びかけに応えた、料理の得意な女性２人が、平成 26 年より地区の集

会所で「村のレストラン」の取組を開始した。

月に１回の開催日には、地区の内外から 30～40 人の利用があり、地域でとれた米や野菜、ジビエなどを活用したメニューが好評であり、食事の後も会話を楽しめ、世代を越えた交流の場となっている。またＫＫＰの各活動の後にも、村のレストランを開催し地域交流の拠点として活動をサポートしている。

写真２　村のレストランで交流

３回目の開催からは、お菓子作りが得意な女性２人がパティシエとして参加するなど活動は広がりを見せている。

ＫＫＰでは、地区内の空き家を活用して、常設レストランの開店を予定している。

エ　女性が活躍する組織

ＫＫＰは、女性が初代会長を務めた組織であり、地域づくりに女性が活躍できるよう積極的に支援している。特に子育て中の母親世代の取組は、当初より近隣地域の者も受け入れて活動しており、上ノ村だけでなく周辺の集落を含めた地域全体の活性化に寄与すると期待されている。

①　上ノ村ワークショップ

上ノ村ワークショップは、平成 28 年に子育て中の母親世代と縁結びプロジェクトの大学生との連携で始まり、地域の課題を一緒に考え、活動を企画し取り組んでいる。平成 28 年には、ワークショップで出たアイデアが自治会と池の管理団体を動かし、約 10 年ぶりに惣谷池の池干しイベントが復活した。

②　まめっこ

まめっこは、ＫＫＰが開催する地区の交流活動で、「食」と「農」への関心が高い、小学生の子どもを持つ母親達 11 世帯（地区外４世帯）37 人で結成し、平成 27 年より休耕田約 7ａを活用して、栽培が容易で加工も楽しめる大豆の栽培を始めた。大豆の生長を見守る中で、通学途中に草を取る子どもがいるなど、大豆を通して様々な学びが生まれた。収穫した大豆は、大学生と一緒に味噌や豆腐等に加工した。

写真３　まめっこの活動

まめっこの取組で、農業や地元農産物への関心の高まりや、子供たち

の自発的な取組が起こったことが大きな成果で、今年は、子供たちの提案で、サツマイモにもチャレンジしている。

オ　連携する組織

上ノ村の地域づくりの活動は、様々な活動を通じて受入体制が整っていることから、大学や企業から注目されており、ＫＫＰと連携した活動への参画が増えている。

①　三重大学

地域戦略センターとは、平成 25 年に「三重県の地域活性化プラン事業」を通じて連携をスタートし、学生達が縁結びプロジェクト活動の中心として活躍している。

生物資源学部とは、獣害対策に関する研究で協力関係にあり、地元猟師の経験や知恵を盛り込んだ獣害防止システムを研究し、上ノ村で実証試験を実施している。

②　大和ハウス工業（株）三重支店

大和ハウス工業は、ＣＳＲ活動で、平成 27 年から約 27a の休耕田を活用し米作りをしている。また、遊休農地の草刈など地域の活動にも参加し、秋には収穫祭を開催し住民との交流を行っている。

写真４　大和ハウス工業田植

③　九鬼産業（株）

九鬼産業(株)は、国産ゴマの生産拡大と遊休農地の解消を目指し、平成 28 年度からＫＫＰと連携し、約８ａの休耕田を活用しゴマの栽培を開始した。平成 29 年度からは、はくさん作業所（Ｂ型福祉事業所）との農福連携にも取り組んでいる。

■　むらづくりの特色と優位性

１．むらづくりの性格

（１）身の丈に合った取組

上ノ村は、全国の多くの集落と同様に、特産物、伝統文化、観光スポットなどの目立った地域資源は少なく、少子高齢化や獣害など中山間特有の課題を抱えていた。

上ノ村の重要資源は、良質な農産物を生産できる整備された農地と、村を支える人である。地域を振興する際、特産品のブランド化、観光、６次産業化といった経済性を求める取組が注目される中で、上ノ村では、村を支えるのは人であるという観点から、経済性にとらわれない、地域の風土や人間性に配慮した、無理のない身の丈に合った取組を基礎として、外部から学生や企業を巻き込み、短期間に数々の取組を立ち上げ継続させている。

（２）多くの活動主体で地区の活性化

ＫＫＰでは、「人と農を核に村をデザインする」をコンセプトに、活動のきっかけ作り、場づくりを推進している。「できること、やりたいこと、得意なこと、好きなこと」から自由に活動を立ち上げ「この指とまれ！」式に参加を呼びかけ、参加者が地域に貢献できる喜びを体験することで、さらなる活動につなげていく「幸福のサイクルを回そう！」運動で継続的な活動につなげている。地域に「主体的な取組」を行う活動主体が多いことが、持続性のある地区の活性化につながっている。

２．農業生産面における特徴

（１）農業生産面の取組

ア　獣害防止による生産基盤の確立

ＫＫＰでは、集落の問題を探るため、平成 22 年に「集落の課題に関するアンケート」を全戸に実施し、集落の最も大きな問題が獣害であることがわかり、その後ＫＫＰの活動の基礎となる、獣害対策に取り組むこととなった。

平成 23 年に、獣害対策協議会を設立し、全住民参加により８km の侵入防止柵を設置し、柵の適正な管理や害獣の捕獲に取り組んだことで、農作物の被害金額は８割減少し安心して農業生産に取り組める基盤を確立した。

イ　新たな担い手の就農と農地の集積

ＫＫＰの活動で獣害が軽減されたことで、担い手への農地集積が検討されたが、地区内の担い手は 70 歳代で、耕作面積の拡大には限界があった。

しかし､担い手の 40 歳代の後継者が、勤め先を退職し農業大学校で学んだ後、平成 25 年より父親と共に自営農業に従事することとなり、耕作面積は平成 29 年には 15ha に倍増した。

写真５　担い手親子

就農した後継者は、当初就農を考えていなかったが、ＫＫＰの活動に参加する中で「自分にできる役割が何かあるのではないか」と考え就農を決断した。

ＫＫＰの取組による、獣害防止と、用排水路等の維持管理や草刈り等の負担軽減が、新たな就農と農地集積につながった。

ウ　遊休農地を解消して農地を守る取組

上ノ村では、耕作の再開、企業や学生の活動など様々な取組により、遊休農地を解消して地区の農地を守る取組を行っている。ＫＫＰの取組により、農家の耕作再開 67a、学生の活動 23a、企業連携 35a、まめっこ７a、

蓮池２ａなど、遊休農地の解消が進んでいる。

（２）生産・流通面の取組

ＫＫＰの活動が、担い手への農地集積につながり、生産性が向上し収量も安定したことが、担い手の経営向上につながっている。

また、小規模の農地についても、獣害の減少で米や野菜の生産が回復しており、地区の農産物を村のレストランで利用することにより、高齢者が自ら栽培した農産物を食べてもらうことに喜びを感じ、生産意欲が高まっており、農地の有効活用、遊休農地の解消などの成果が表れている。

ＫＫＰでは、村のレストランの店舗化、常設化に併せて、農産物の販売拠点を兼ねることを計画しており、農家所得の向上も期待されている。

３．生活・環境整備面における特徴

（１）農村環境保全の取組

ア　地域の環境美化の取組

ＫＫＰでは、設立当初より地区の環境保全活動に取り組んでおり、全住民が参加して、地区内の水路等の補修作業や共同点検作業などの生活環境保全活動を行っており、美しい農村環境及び営農環境が維持されている。

イ　農村景観の形成の取組

ＫＫＰでは、平成 21 年に湿田のため遊休農地となっていた水田２ａにハスを作付けし蓮池として整備した。花の時期には近隣の人々が見学に集まり賑わう場所となっており、地区住民はもとより、近隣地区の住民が訪れ憩いの場となっている。

ＫＫＰでは、害獣の侵入防止のために３頭のヤギを飼育している。獣害対策が目的だが、ヤギがいる農村風景が人気となり、ヤギを見るために訪れる人が増えている。今年２頭の小ヤギが生まれ地区のアイドルとなっており、獣害対策に加え景観形成・住民交流にも役立っている。

（２）コミュニティ活動の強化、交流等の取組

ア　集会所の機能強化

ＫＫＰでは、今後の多様な活動に対応できるよう、平成 25 年に「コミュニティ助成事業」を活用して、活動拠点の集会所へ、活動に必要な備品を整備したことで、集会所の利用が大きく増加した。

また、縁結びプロジェクトの学生達が集会所に手作りでピザ釜を作成した。地域に関わる者は誰でも使用でき、地域活動の慰労会や学生や企業との交流等に活用され、地域活動、交流活動に

写真６　手作りのピザ釜

欠かせないアイテムとなっている。

イ　盆踊り（まつり）の復活とエイサー

上ノ村成願寺盆踊りは、特別な伝統行事がない上ノ村の子ども達が大きくなって、郷里を思い起こせる行事を作りたいという想いで、平成 17 年に復活した。同時に、祭りを盛り上げる新たなイベントとして、人材育成の仕組みに感銘を受けて沖縄の伝統芸能「エイサー」を取り入れ、「エイサーはくさん倭人(やまとんちゅ)」を結成した。

平成 24 年に子供たちのエイサー隊を結成し、周辺地域を含め倭（やまと）小学校区で活動しており、津市の祭りに参加するなど活動が広がっている。

（３）地区の魅力発信の取組

ＫＫＰでは、毎月末にＫＫＰの活動やイベントを紹介する「上ノ村環境保全通信」（113 部）を発行し、地区の全戸に配布して地域ぐるみの活動につなげている。

また、縁結びプロジェクトの学生が作成した「上ノ村紀行」は、地区の地域資源等を記載した地図で、地区全戸への配布のほか、近隣の駅、行政機関等へ配布し交流に寄与している。地区の住民にも評判が良く、地域資源や地域の魅力を再発見するきっかけとなっている。

第３図　地域資源紹介地図